

# 第14回通常総会

2008年3月19日(水)

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

## 第14回通常総会次第

日時 2008年3月19(水) 13時～14時

会場 東京大学 駒場キャンパス 13号館 1313教室

### 総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 2007年度優秀論文賞, 第13回年次大会優秀発表賞の表彰
4. 議長選出
5. 2007年度事業報告
6. 2007年度決算報告、監査報告
7. 2008年度事業計画提案
8. 2008年度予算計画提案
9. 2008年度評議員構成
10. 2008年度役員構成
11. 閉会

以上

# 2007年度事業報告

## 1. 概要

言語処理学会の主要活動として雑誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました。「自然言語処理」に関しては、通常号と共に特集号を企画・発行しました。英文誌に関しては、情報系の6つの学会が協力して、英文論文のリプリントを束ねた合同アーカイブ Information and Media Technologies Vol.2, No.1～No.4を発刊しました。それぞれの学会のジャーナル掲載論文のうち英文で公表された論文を対象に海外への発信を目的にしてJSTの電子ジャーナルシステムを利用したものです。また、英文論文集としては、スタンフォード大学 CSLI との共同企画により、最近の「自然言語処理」に掲載された論文のうちから、日本語を対象にした優れた論文を選定し英文化してCSLI から書籍として出版する計画を2006年度から具体的に進めていて、2007年度を通じて編集作業が行われており2008年度に発行する予定です。

言語処理学会の15周年記念事業として、自然言語処理に関する幅広いテーマを集めた事典を編集して、言語処理学事典として出版するための計画を進めました。全体を5部構成として、言語資源、基礎技術、総合技術・応用技術、言語科学の基礎、言語科学の展開として2008年3月末を締め切りとした原稿依頼を終了しています。用語集や索引を含めて全体で900ページ程度になる規模を想定しています。国際交流に関しては、特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力などを通じて言語処理学会として寄与していきます。2008年1月にインドで開催されたIJCNLPでは長尾ファンドを用いて、若手研究者の旅費などを支援する活動を行いました。

第13回年次大会を2007年3月19日（月）から23日（金）まで、龍谷大学瀬田学舎で開催しました。初日のチュートリアルの参加者は約200人、本会議の参加者は、600名近くでした。また、併設の2件のワークショップには延べで250名余りの参加者がありました。参加者の延べ数では1040名を超えており、今までの地方開催の年次大会で最も多くの参加者がありました。

## 2. 会員現況 (2007年11月25日現在、増減は 2006年11月29日との比較)

正会員	745 (+25) 名		
学生会員	169 (+29) 名		
賛助会員	14 (±0) 組織	(16口 (±0))	
定期購読会員	50 (±0) 組織	(55口 (±0))	

## 3. 会誌の発行

- 14巻1号(2007年1月発行、通巻59号)  
巻頭言、論文7編、技術資料1編、会告
- 14巻2号(2007年4月発行、通巻60号)  
巻頭言、論文4編、会告
- 14巻3号(2007年7月発行、通巻61号)  
巻頭言、論文15編、会告
- 14巻4号(2007年10月発行、通巻62号)  
巻頭言、論文5編、会告

- 14巻5号(2007年10月発行、通巻63号)  
巻頭言、論文8編、会告

#### 4. 第13回年次大会の開催

開催日：2007年3月19日(月)～3月23日(金)

会場：龍谷大学 瀬田学舎 3号館,4号館 (大津市瀬田大江町横谷1番5)

プログラム

[チュートリアル講演] (2トラック各3件 計6件) 3月19日(月)

- トラック1「計算機の言語資源」
  - 「非線形言語モデルに基づく意味的等価変換方式の実現に向けて  
- 日本語重文複文に対する意味類型パターン辞書の研究開発 -」  
池原 悟 (鳥取大学)
  - 「言語処理基盤としての言語資源  
- タグ付きコーパス、生コーパス、そして新聞記事からウェブへ -」  
河原 大輔 (NICT)
  - 「コミュニケーション研究のための多言語話し言葉コーパス構築」  
竹澤 寿幸 (NICT/ATR)
- トラック2「文法と意味論」
  - 「自然言語処理における文法開発の軌跡と展望」  
二宮 崇, 宮尾 祐介 (東京大学)
  - 「文法理論に基づく言語処理技術の現状とその応用」  
- Parallel Grammar Project の活動を中心に -」  
増市 博, 梅基 宏, 大熊 智子 (富士ゼロックス)
  - 「日本語の数量詞の意味論」  
郡司 隆男 (神戸松蔭女子学院大学)

[招待講演] (2件) 3月21日(水)

- 「発話が伝える意味 - 発話意図を理解する脳機構とその発達 -」  
今泉 敏 氏 (県立広島大学)
- 「人間の言語処理における選択的遅延処理モデル - 「ガ格連続文」の処理を中心に -」  
坂本 勉 氏 (九州大学)

[特別講演] (1件) 3月21日(水)

- 「大量情報からの価値創出」 喜連川 優 氏 (東京大学)

[一般発表 講演発表] 3月20日(火)～22日(木) 発表件数 185件

[一般発表 ポスター発表] 3月20日(火)～22日(木) 発表件数 113件

[ワークショップ] 3月23日(金)

- W1「言語的オントロジーの構築・連携・利用」発表件数11件、招待講演1件
- W2「大規模 Web 研究基盤上での自然言語処理・情報検索研究」発表件数11件

参加者数	事前申し込み	当日申し込み	合計
本大会参加者数	456	132	588 (- 119)
チュートリアル	175	24	199 (- 125)
ワークショップ	215	41	256 (+ 6)

(カッコ内は昨年との比較)

#### 年次大会優秀発表賞

言語処理学会年次大会優秀発表賞は、年次大会において、論文の内容およびプレゼンテーションに優れたものと認められた発表論文に与えられる賞です。また、優秀発表賞のうち特に優れたものがあれば、最優秀発表賞として選定することが第11回からとりいれられました。

第13回年次大会プログラム委員会は、選考委員会での審議に基づき、次に示す2件の最優秀発表賞ならびに4件の優秀発表賞を選定しました。

#### ● 最優秀発表賞(2件)

C5-1 大規模日本語ウェブ文書を対象とした開放型検索エンジン基盤の構築

新里圭司 (京大), 柴田知秀 (東大), 河原大輔 (NICT), 黒橋禎夫 (京大)

D1-1 データの分布特性を利用した半教師有り系列構造学習:言語解析への適用

鈴木潤, 藤野昭典, 磯崎秀樹 (NTT)

#### ● 優秀発表賞(4件)

B2-1 漢輔:外国人のための漢字検索システム

田中久美子, Julian Godon (東大)

D3-7 コールセンターにおける会話マイニング

那須川哲哉, 宅間大介, 竹内広宜, 荻野紫穂 (日本 IBM)

S1-1 教育用語彙選定における特徴語抽出及び Wordplot の利用

中條清美 (日本大), 内山将夫 (NICT), 中村隆宏 (小学館), 西垣知佳子 (千葉大)

PL1-2 日本語書き言葉を対象とした述語項構造と共参照関係のアノテーション:

NAIST テキストコーパス開発の経験から

飯田龍, 小町守, 乾健太郎, 松本裕治 (NAIST)

## まとめ

今回で13回目となる年次大会は、前回の12回大会が首都圏で行われたこともあり、地方開催となりました。本大会が自然言語処理研究における国内最大の会議として定着したことから、本会議で298件と、昨年、一昨年同様、多数の論文発表がありました。また、参加者も、過去最高であった昨年度までは達しませんが、同じく地方開催であった第11回より多くの方に参加していただき(本大会588名)、地方開催にともなう参加者減の傾向も見られなくなってきたように思います。

このような近年の大会の大規模化にともない、今まで通りでのプログラム委員会の運営では困難となってきたことから、前大会のプログラム委員会では様々な工夫がなされ、大会を成功に導くことができました。今回も前回の様々な試みを実施しつつ、新たな試みも導入しました。

### (1) チュートリアル

前回好評であったチュートリアルの2トラック化を今回も導入し、様々な興味を持った方が参加しやすいようにしました。その結果、約200名の方に参加いただきました。

### (2) プログラム冊子

前回同様、論文集のCD-ROM化と、製本コストの低減、また、広告掲載、企業協賛をお願いすることによる印刷費の補填を行った結果、健全な単独収支を実現しました。

### (3) テーマセッション

「教育を支援する言語学・言語処理」、「語の意味」と言語学・言語処理」の2種類のテーマセッションを企画し、論文募集いたしました。両方とも1セッションでは収まりきれないほど多数の論文発表がありました。

### (4) 招待講演、特別講演

招待講演は、今泉敏(県立広島大学)、坂本勉(九州大学)両先生にお願いしました。また、年次大会参加者層にとって有益な時代的なホットピックについてご講演いただく特別講演を、招待講演とは別に企画し、喜連川優(東京大学)先生にご講演いただきました。

### (5) ワークショップ

本大会の翌日に、「言語的オントロジーの構築・連携・利用」「大規模 Web 研究基盤上での自然言語処理・情報検索研究」2件のワークショップを開催し、両方とも100名以上の参加者があり、大変盛況でした。

## 5. ニュースレターの発行

2007年は、ニュースレターVol.14 No.1～No.4の4号を発行し、学会運営、大会案内、会議報告など会員への各種情報の提供を行いました。これらのバックナンバーは、学会ホームページでも公開しております。

## 6. 会議

### 理事会

計4回の理事会を開催し、新入会員の承認、論文賞選考、年次大会の方針、年次大会優秀発表賞、

英語論文合同アーカイブ、言語処理学事典の編纂、若手の会シンポジウムの支援等の学会資産の有効利用、学会ホームページの内容更新、長尾ファンドからIJCNLPへの寄付等について審議し決定しました。また、会費納入や学会誌作成、ニュースレター発行等の学会運営についても議論しました。

理事会開催:

第64回 (2007年3月13日、龍谷大(瀬田学舎))

第65回 (2007年6月15日、慶應大(三田キャンパス))

第66回 (2007年9月1日、産業技術総合研究所(秋葉原))

第67回 (2007年12月1日、産業技術総合研究所(秋葉原))

#### 編集委員会

2007年中に4回の編集委員会を開催し、自然言語処理に掲載する論文の審議をしました。2006年度に電子査読システム RACCO のサービスが停止したため電子メールを用いて迅速な査読に努めています。中西印刷が提供する学会管理システム等の導入による効率化についても検討中です。

編集委員会開催:

第60回 (2007年4月20日 産総研)

第61回 (2007年7月20日 産総研)

第62回 (2007年10月19日 産総研)

第63回 (2008年1月23日 産総研)

英文論文アーカイブ(IMT)への論文掲載:

情報関連学会による国際的な電子ジャーナルとしてのIMT (Information and Media Technologies) に、第13巻4号及び第14巻1~5号掲載の英語論文7件を提供することとしました。

2007年度優秀論文賞の選考:

論文賞は、採録論文30件程度につき1件を目途に授与することになっています(平成18年1月の編集委員会で提案し、理事会で承認)。これに基づき、2007年に出版された自然言語処理14巻1号から5号に掲載された論文39件から1件を推薦することを目標として、以下の手続きで候補論文の選考を行いました。

- (1) 第1次選考として、期間中の各号に掲載された論文のうち、査読点数が5点満点で4点以上の論文20件を対象に、1論文あたり2名の編集委員が読み、10点満点で採点しました。

- (2) その結果、高得点を得た上位5件の論文を第2次候補論文とし、編集委員全員が4点満点で採点しました。
- (3) その最上位の論文1件について審議し、これを論文賞候補に推薦することに決しました。

以上



# 2008年度事業計画

## 1. 運営・活動方針

言語処理学会の主要な活動として、論文誌「自然言語処理」を定期的に発行するほか、特集号の企画・発行を行い、年次大会を開催します。また、これらの論文誌や年次大会で発表された研究の内容を広く内外に流通させるとともに、会員の自然言語処理の研究発表を支援することも本学会の重要な役割と考え、活動を進めて参ります。

英文論文集としては、昨年スタンフォード大学 CSLI との共同企画により、最近の「自然言語処理」に掲載された論文のうちから、日本語を対象にした論文を英文化して、図書として出版する計画を進めてきました。また、国内の大学からのレポジトリへの掲載や学術機関からの転載の要請にも応えてきましたが、新年度も同様の要請に積極的に対応していきます。

研究発表を支援する活動として昨年は、若手の会が企画したシンポジュームの支援や長尾ファンダを活用した国際会議の支援を行っています。特に、国際交流に関しては、いままで、特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力を行ってきました。今年度も予算の許す範囲で、このような研究活動の支援を継続して実施します。

言語処理学会の15周年記念事業として企画した「言語処理学事典」の出版計画については、すでに、目次、掲載項目の詳細検討を終え、執筆者への執筆依頼を一通り終了しております。今年度は、執筆された原稿の収集と内容確認を行うこと、また、索引や囲み記事の編集などなど、残された編集作業を実施し、年内の完成を目指します。

## 2. 会誌の発行

通常号のほか、特集号を企画しています。自然言語処理分野で英文論文誌の発行や、現在の日本語論文誌の電子化を目指し、引き続き検討を進めます。

第15巻第1号(2008年1月10日発行、通巻64号)

第15巻第2号(2008年4月10日発行予定、通巻65号)

第15巻第3号(2008年4月10日発行予定、通巻66号)「言語的オントロジーの構築・連携・利用」特集号

第15巻第4号(2008年7月10日発行予定、通巻67号)

第15巻第5号(2008年10月10日発行予定、通巻68号)

その次の特集号は「教育・学習を支援する言語処理」の予定です。第14回年次大会の同名のワークショップでの発表論文からの投稿を期待して、その後に論文の募集を始めます。特集号の発行は2009年の予定です。

## 3. 第14回年次大会の開催

日時：2008年3月17日(月)～3月21日(金)

会場： 東京大学 駒場キャンパス

- ◇ 3月17日(月) チュートリアル (10:00-17:30)
- ◇ 3月18日(火) 本会議 第1日 (9:30-18:30)
- ◇ 3月19日(水) 本会議 第2日 (9:00-18:00)
  - 総会 (13:00-14:00)
  - 招待講演 (14:00-16:00)
  - 懇親会 (18:30-)
- ◇ 3月20日(木) 本会議 第3日 (9:00-18:00)
- ◇ 3月21日(金) ワークショップ
  - ワークショップ「教育・学習を支援する言語処理」

#### 4. ニュースレターの発行

原則として、前年と同様の回数と内容で発行する計画で、学会メーリングリストを通じて電子配送します。これらは学会ホームページにバックナンバーとして公開します。また、理事会で審議された事項の公開について検討します。

#### 5. 会議

##### 総会

通常総会を2008年3月の年次大会で開催します。

##### 理事会

昨年度同様に開催します。予算のゆとりを会員に還元する施策・事業、「自然言語処理」および年次大会予行集の電子媒体の会員配布、年次大会の開催などについて審議します。

##### 評議員会

総会に合わせて2008年度第1回会合を開催します。賛助会員の増員に向けての施策、学会全体の活動の活性化に向けた施策、若手研究者の参加や様々な研究分野からの参加の促進などについて議論します。

##### 編集委員会

編集委員会を会誌の発行に合わせて開催し、迅速かつ充実した論文審査を目指して、より良い査読の方法を検討します。査読管理の再電子化および現在のジャーナルの電子化についても引き続き検討します。

## 6. 2008年度評議員構成

2006 - 2009 年度評議員		2008 - 2011 年度評議員	
氏名	所属	氏名	所属
相澤 彰子	NII	天野 真家	湘南工科大
赤峯 享	NEC	池田 尚志	岐阜大
荒木 健治	北大	乾 健太郎	奈良先端大
伊東 秀夫	リコー	梅村 恭司	豊橋技科大
宇津呂 武仁	筑波大	大塚 裕子	計量計画研
遠藤 勉	九工大	落谷 亮	富士通
梶 博行	静岡大	小原 京子	慶大
工藤 孝史	札幌大	北村 美穂子	沖電気
佐藤 理史	名大	竹内 孔一	岡山大
白井 清昭	北陸先端大	田中 久美子	東大
高山 泰博	三菱電機	徳永 健伸	東工大
田中 英輝	NHK	新田 義彦	日大
中澤 恒子	東大	丹羽 芳樹	日立
那須川 哲哉	日本IBM	林 良彦	大阪大
古瀬 蔵	NTT	平川 秀樹	東芝
		フランス ホンド	NICT
		山本 和英	長岡技科大
計 15 名 (50 音順)		計 17 名 (50 音順)	

## 7. 2008 年度役員構成 (\*印は新任の役員です)

役員名	氏名	所属
会長	池原 悟	鳥取大
副会長(総編集長兼務)	橋田 浩一	産総研
理事(編集委員長)	中岩 浩巳	NTT
理事(編集担当)	東条 敏	北陸先端大
理事(編集担当)	荻野 綱男 *	日大
理事(編集担当)	隅田 英一郎 *	ATR
理事(事業担当)	井佐原 均	NICT
理事(事業担当)	加藤 恒昭	東大
理事(事業担当)	黒橋 禎夫 *	京大
理事(渉外担当)	馬 青	龍谷大
理事(渉外担当)	奥村 学 *	東工大
理事(渉外担当)	柏野 和佳子 *	国語研
理事(財務担当)	斉藤 博昭	慶大
理事(総務担当)	森 辰則	横浜国大
理事(総務担当)	村上 仁一 *	鳥取大
		(以上 15 名)
監事	仁科 喜久子	東工大
監事	樽松 明 *	早大
		(以上 2 名)
顧問	長尾 眞	国立国会図書館
顧問	田中 穂積	中京大
顧問	飯田 仁	東京工科大
顧問	辻井 潤一	東大
顧問	島津 明	北陸先端大
顧問	中川 裕志	東大
顧問	石崎 俊	慶大
		(以上 7 名)
会誌編集委員会 2008 - 2009 年度		
総編集長	橋田 浩一	産総研
編集委員長	中岩 浩巳	NTT

